

琵琶湖博物館 フィールドレポーター

掲 示 板

2023 年度 第1号 通巻 103号 2023 年 12 月 16 日発行



ヒメタニシ (椋島提供)

フィールドレポーター副担当の鈴木隆仁です。琵琶湖のプランクトンたちは、ようやく冬の様相となってきましたが、今年は去年以上に気温の変動が激しい年でした。こうなってくると、生物調査にも影響が出てきそうです。はたして調査の結果はどうだったのでしょうか。

今年度の前半の調査は「スクミリンゴガイおよびタニシ類分布調査」でした。湖岸の壁や、ヨシに付いたピンクの毒々しい卵は、特に滋賀県南部にいる方は、見た覚えがあるのではないのでしょうか。一度は余呉湖でも発見され、ついに湖北にも侵入か、と危ぶまれたスクミリンゴガイですが、今回の調査ではどうなったか気になるところです。水田に現れる貝類と言うことで、今回の掲示板には載っていませんが、タニシ類も一緒に分布調査をしています。正直なところ、私自身はタニシのはっきりとした同定ができないため、同定は貝類の専門家の菅原学芸員にお願いしています。結果が待ち遠しいですね。

後半の調査では、「近江のナレズシ県民大調査」が実施されています。30年前に同様の調査があったそうで、30年と言う期間でどのような変化が起きているかを調べています。オンラインからも参加できますので、気になったらぜひ確認してみてください。

フィールドレポーター副担当 鈴木隆仁主任学芸員

☒ ☒ …… 📄 📄 📄 …… も く じ …… 📄 📄 📄 ……

| | 巻頭文 | 鈴木学芸員 | |
|---|---------------------------|-----------|----------|
| 1 | 2023 年度第 1 回交流会報告 | スタッフ | P1 P2 |
| 2 | スクミリンゴガイの卵塊調査結果 | 調査担当、椋島昭紘 | P3 |
| 3 | ナレズシ (フナズシ) 調査の中間報告 | 調査担当前田雅子 | P5 |
| 4 | セミも猛暑には弱い? | 湖西の住人 | P7 |
| 5 | 身近に伝統野菜 | 紅葉鮎っこ | P8 |
| 6 | 赤トンボ調査をしました | 調査担当、椋島昭紘 | P9 |
| 7 | お知らせ (2023 年度第 2 回調査など) | | P10 |
| 8 | 2023 年度 4 月~10 月の活動報告 | | P10 |
| 9 | 2023 年度 11 月~2024 年 2 月予定 | | P11 |

2023年度 第1回交流会報告

フィールドレポーター（以下FR）スタッフ 椋島昭紘

新年度第1回目の交流会はフィールドレポーターが琵琶湖博物館に集まって、前年度の調査結果報告と新年度の調査内容を報告してその内容を基に、調査報告担当、学芸員、交流会に参加した皆さんが調査した時の感想や疑問点などをキャッチボールして交流を深める会として、年度初めに開催してきました。

今年度は会場を久しぶりに従前の屋外展示の生活実験工房で、2023年5月20(土)13時30分～16時半まで開催しました。参加者は20名でした。テーマは3件です。報告内容の紹介および参加者との交流の様子を報告します。

はじめにFR担当の鈴木学芸員から、「解放された会場ですので、楽しく交流いたしましょう。」と開会の挨拶を頂きました。

1件目の報告は2022年度第1回調査の「ヒガンバナは咲いていますか？」です。担当したスタッフの前田雅子さんからの報告です。30年前の調査ではヒガンバナは県内どこでも彼岸の頃に咲くという結果でしたが、開花日の地域による差がないかをあらためて調べてみようというのが、今回の調査の主目的でした。また、ヒガンバナに対する人の意識を探ることも目的の一つに加えました。ここでは結果の概要だけを報告します。詳細はフィールドレポーターだより通巻55号(2023年6月3日発送)を参照願います。

意識調査の結果は、①ヒガンバナは私たちの身近に咲いていて、多くの人が意識して花を見ている。②ヒガンバナで遊んだり、利用したり、栽培した経験を持つ人は少なかった。遊びや利用の実態が周囲になかったこと、また、毒草意識を持った人が多いことが関係しているかもしれない。③年代が上がるほど花に嫌悪感を持つ人が多かったが、全体としては、秋を彩る美しい花として好まれているという現状が浮かび上がった。④だが、花を好む現代の人達でも積極的な利用や関わりは少なく、“ヒガンバナは、見て、秋を感じるもの”という認識が強いということのようです。

花期についての調査結果は、県全体でみるとは9月下旬が花の最盛期だが、開花時期は地域によって差があった。具体的には、県南部の湖岸と内陸を比べると、湖岸部よりも内陸部で開花が早く、秋の気温低下との関連が推測された。県の南北を比べると、北部よりも南部で開花が早く、また春の平均気温が高い地域で開花が早かったことから、春の気温が影響している可能性がある。これらのことから、秋の気温低下は夏の高温で抑制されていた花芽の発育再開として、春の気温上昇は球根内の花芽の生育開始とその後の生長を促すものとして、それぞれ重要な役割を果たしていることが推測されたという、興味深い発表でした。報告終了後、参加者と報告者との活発な質疑応答がありました。詳細は割愛させていただきます。

2件目の報告は2023年度第1回調査の説明です。

調査内容は、調査1が「卵塊調査、スクミリンゴガイの卵塊を見つけよう」、調査2が「できれば調査、スクミリンゴガイの貝と



スクミリンゴガイ(椋島提供)

タニシ類の調査」についてです。調査目的、調査方法を説明しました。

調査目的はスクミリンゴガイの分布が県内に広がっているか。特に県の北部地域に広がっていないかを調べます。また、貝類では在来のタニシ類のマルタニシ、ヒメタニシなどが減少していないかを調べます。調査開始は4月末からですので、参加された皆さんからは調査途中の感想やタニシの写真の撮り方について質問があって、学芸員からの丁寧な説明に納得された様子でした。疑問の解消に役立ったのではないかと思います。



卵塊 (中野様提供)

3件目は琵琶湖博物館の周辺の湖岸に出てスクミリンゴガイの卵塊を見つけようです。鈴木学芸員の案内で湖岸の観察をしました。目的の卵塊が確認できましたので、皆さんの調査に参考になったと思いました。

交流会に参加していただきましてありがとうございました、今後ともフィールドレポーターの活動にご支援いただきますようお願い申し上げます。

スクミリンゴガイの卵塊を見つけよう

調査担当 FR スタッフ 椋島昭紘

2023年度第1回調査は「スクミリンゴガイおよびタニシ類分布調査」でした。フィールドレポーターだよりは、もうやがて報告がなされると思いますが、ここでは調査1のスクミリンゴガイの卵塊を見つけよう調査で、皆さんからよせられた、卵塊が見つかった結果を報告します。

1. スクミリンゴガイとタニシ類が調査された地点の県内分布図

今回調査の全調査地点は146地点で、分布は図1の通りです。

2. 卵塊が見つかった地点の県内分布図

卵塊が見つかった地点は49地点でした。県内の分布は図2です。見つかった地点は琵琶湖の西側では25ヶ所で、大津市だけでした。琵琶湖の東側は24ヶ所でした。湖北、湖東、高島市は見つかった報告はありませんでした。

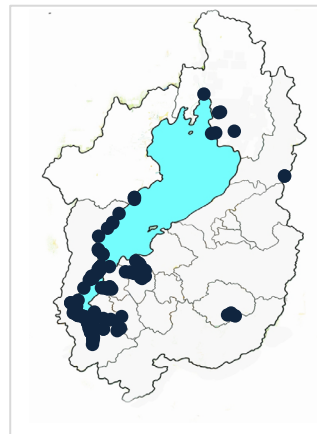


図1 全調査地点

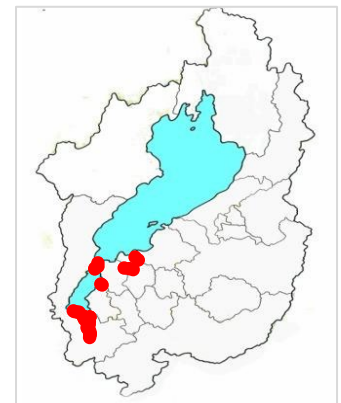


図2 卵塊が見つかった地点

| | | |
|-----|----|---|
| 大津市 | 25 | 本堅田 (5ヶ所)、におの浜 (3ヶ所)、丸の内町 (1ヶ所)、本丸町 (2ヶ所)、御殿が浜 (1ヶ所)、晴嵐 (1ヶ所)、松原 (1ヶ所)、唐橋町 (2ヶ所)、蛭谷 (3ヶ所)、石山寺 (3ヶ所)、平津 (2ヶ所)、千町 (1ヶ所) |
|-----|----|---|

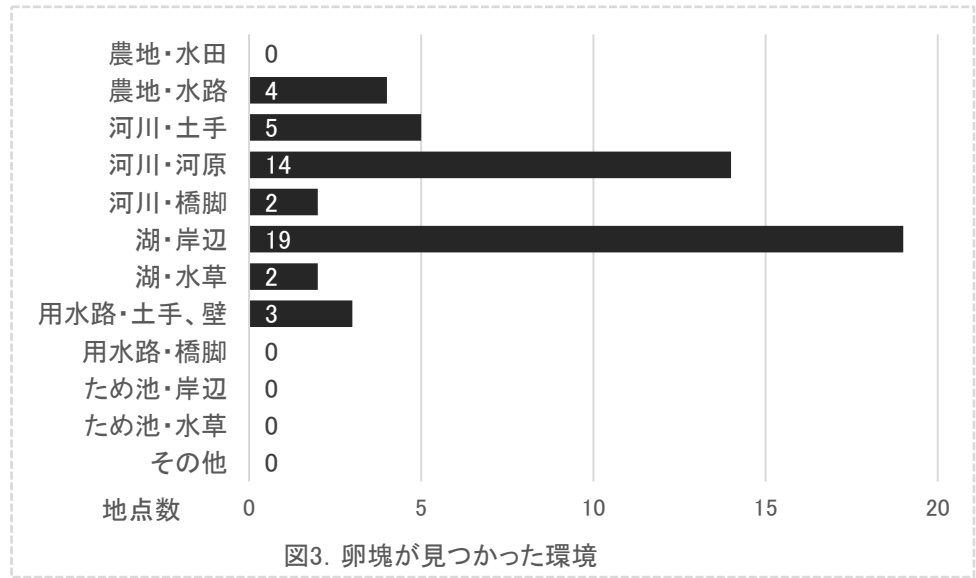
表1 卵塊が見つかった、琵琶湖西側、瀬田川西岸の地点

| | | |
|-------|----|-----------------------------------|
| 大津市 | 18 | 大萱（5ヶ所）、萱野浦（1ヶ所）、玉の浦（3ヶ所）、瀬田（9ヶ所） |
| 草津市 | 1 | 下物町（1ヶ所） |
| 守山市 | 1 | 山賀（1ヶ所） |
| 野洲市 | 2 | 井口（1ヶ所）、吉地（1ヶ所） |
| 近江八幡市 | 2 | 野村（1ヶ所）、佐波江（1ヶ所） |

表2 卵塊が見つかった、琵琶湖東側、瀬田川東岸の地点

2. 卵塊が見つかった地点の環境

図3の通りです。
最も多かったのは湖の岸辺でした。次に河川の河原です。農地では水路で見つかりました。卵塊の見つかった場所の一例を写真で示しました。



ナレズシ（フナズシ）調査の中間報告

調査担当 前田雅子

フナズシを漬けるお宅では、年末に桶を開けて、今年のフナズシをご賞味されたことでしょうか。「近江のナレズシ県民大調査」が11月から始まっています。みなさん、調査票にご記入いただけましたでしょうか。

この原稿を書いている2023年12月10日時点で、133通の調査票が寄せられています。県外の方からの調査票も多数あり、たくさんの方々にご参加くださっていることに感謝しています。ここでは、県内在住の96人分の調査票について、集計結果を簡単にまとめて中間報告をします。

フナズシを食べたことのある人は多い

表1に示すように、フナズシを「食べたことがない」は14人（15%）、「食べたことがある」は82人（85%）、「フナズシを知らない」は0人で、食の経験者は予想以上に多いようです。30年前の調査では85%の人が食べたことがあると答えていますので、現段階ではそれと同率です。

ただ、食べたことのある82人のうち、食べる頻度が「これまでに5回以内」は25人（30%）、「年に4-5回」は36人（44%）、

「月に2-3回」は10人（12%）です。普段の食事に登場するほど頻繁には食べられていないようです。

これは、若い年代の人が食べていないのでしょうか。それとも、地域によって食べ方に違いがあるのでしょうか。調査期間終了後、他の質問事項との関連について検討したいと考えています。どのようなことが表れてくるか楽しみです。

フナズシを食べた人の感想と、食べない人の理由

フナズシを食べたことのある人の感想で一番多いのは、「おいしい」です（図1）。82人中の56人（68%）がそう答えました。「くさい」は18人（22%）ありました。模範解答を求める調査ではないので、「くさい」「きらいだ」を遠慮なく選択してください。自由記述欄には、「くさいけど日本酒と合う」「今どきの上品な味ではなく、くさくて酸っぱいのが好き」「くさい！二度と食べたくない」など、いろいろな記述があります。同じ「くさい」を選んでいても、その奥に多様な食の嗜好が垣間見えるところが、興味深いです。

一方、食べたことのない人の理由で最も多かったのは「食べる機会がないから」です（図2）。そうなのだろうなあと思います。「食べてみようと思ったが、臭いからやめとき！と言われた」というコメントもありました。

表1 フナズシの認知と食べた経験

| 認知・経験の有無と頻度 | 人数 |
|-------------|-------|
| 食べたことがない | 14人 |
| 食べたことがある | 82人 |
| これまでに5回以内 | (25人) |
| 年に4-5回 | (36人) |
| 月に2-3回 | (10人) |
| ほぼ毎日 | (0人) |
| その他 | (11人) |
| フナズシを知らない | 0人 |

自由記述欄に皆さんの体験や率直なご意見を書いていただき、いろいろ教えてください。

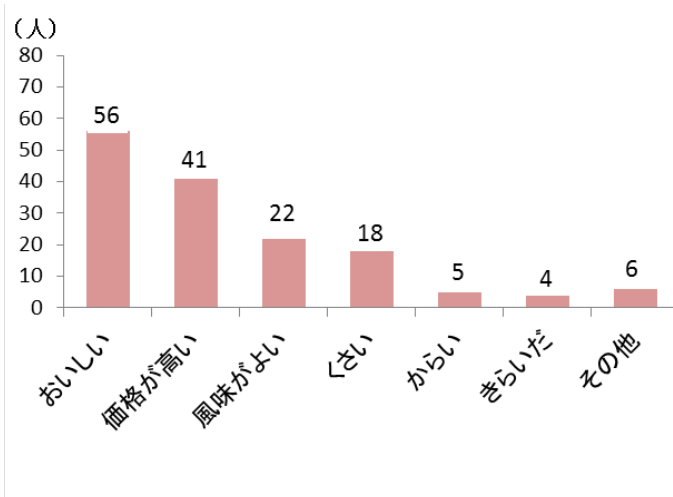


図1 フナズシを食べた人の感想
(複数回答)

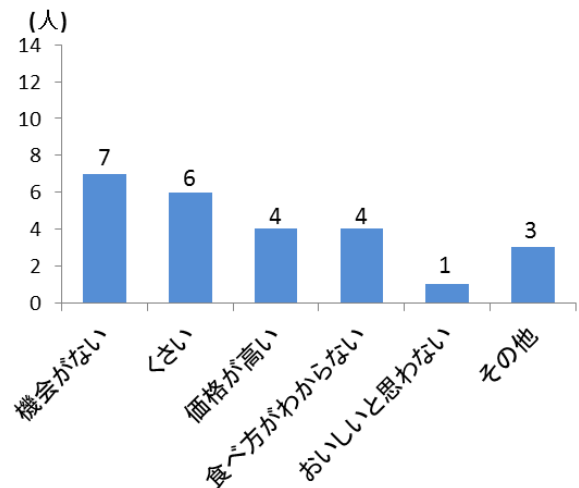


図2 フナズシを食べたことがない理由
(複数回答の人あり)

フナズシの好きな部位は「卵のある腹部分」がダントツ

フナズシを食べたことのある人に、一番好きなフナズシの部分はどこかを聞きました。半数の人が「卵のある腹部分」、約四分の一の人が「卵のない腹部分」を選択しました。約六分の一の人は「全部」と答えました(図3)。

「頭」「尻尾」を選択した人は、なかなかの通とお見受けします。そのおいしい食べ方を書いて下さっていますので、最終報告で紹介しようと思います。

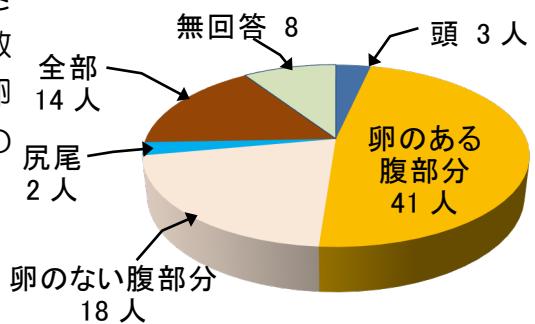


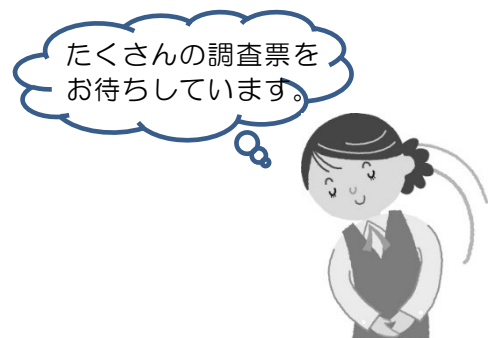
図3 一番好きなフナズシの部分
(複数回答の人あり)

両手を広げて調査票の返送・返信をお待ちしています

調査票の最後にお住いの市町を記入してもらっていますが、現段階では大津市、草津市、栗東市、野洲市の方が6割で、どちらかというと、県の南西地域からの報告が多く集まっています。そのため、県の東北地域が手薄の状況です。甲賀市～多賀町にかけて、そして彦根市～長浜市～高島市にお住まいの方に、ラブコールを送ります。

調査期間は1月31日までですので、終了までにもう少し日数があります。みなさんご多忙と存じますが、アンケート調査にご協力をよろしく願いいたします。

スマホ等で回答するためのQRコードを下に載せています。デジタルに弱い人でも、QRコードさえ読み込めれば、あとは簡単にアンケートに答えることができます。ご活用ください。



セミも猛暑には弱い？

湖西の住人

今年の夏はとても暑かったですね。私の住まいは湖西で、浜大津あたりよりは多少涼しいと思いますが、朝晩を除くと、道路を歩く人の姿が本当に少なかったです。暑すぎて外に出られないのだろうと、勝手な想像をしながら、窓から外を眺めていました。

家にいると、セミの鳴き声が自然に耳に入ってきます。今年のセミは何だか変だなあと思いましたので、記憶をたどりながらレポートします。ただしあくまでも、我が家周辺についての私見です。

♠ 早くからニイニイゼミ

ニイニイゼミは6月27日に鳴き始めました。例年の初聴は早くても7月初旬ですので、今年はかなり早いと思いました。朝晩に声を聴くことが多かったですが、元気に鳴いていました。

♣ クマゼミ Vs. アブラゼミ

ニイニイゼミの次はヒグラシが7月初旬、続いてクマゼミがなんと7月16日に、鳴き始めました。例年は夏休み前頃にアブラゼミ、少し遅れて（1週間くらい？）クマゼミが登場するので、今年はクマゼミの羽化が早く始まったようです。

我が家周辺にクマゼミは40年前にもいるにはいましたが、主体はアブラゼミでした。それが最近では、アブラゼミを上回るくらいに増えて（鳴き声の大きさ等から推量するだけで）、日の出とともに鳴き始め、朝ゆっくり寝させてくれません。

でも今年は、クマゼミがうるさいほどには鳴きませんでした。例年よりも鳴く時間帯が短く、しかも音量が小さいと思いました。そして、お盆に台風7号が通過した後は、急速になくなりました。クマゼミの出現時期が早かっただけかもしれませんが、全体の数も少なかったように思います。

♡ 秋の使者ツクツクボウシ

一方、ツクツクボウシはお盆を過ぎてもなかなか現れず、初聴は8月下旬でした。また、鳴き声がまばらで、セミしぐれにはほど遠い状態でした。9月になっても最高気温30℃以上の真夏日が続く中で、早々に出現期間を終えてしまいました。9月13日には、もう鳴き声が聞かれませんでした。

◇ 抜け殻が少ない

この夏、孫と一緒にセミの抜け殻探しに出かけたのですが、クマゼミ1個体、アブラゼミ2個体を見つけただけでした。アブラゼミの抜け殻は直ぐに見つかるはずなのに、公園の桜の木や神社境内でもなかなか見つかりませんでした。

今年は全般的にセミの声が少なく、また、ツクツクボウシ以外は出現が早かったと思いません。猛暑で、セミの活動が制限されたように思うのですが…。

身近に伝統野菜

紅葉鮒っこ

2019年にフィールドレポーターで、「滋賀の食」調査がありました。転入者の私には、その時初めて知った食材や調理がたくさんありましたが、全国にその名を広げつつあるものもありますね。

まず、湖南省下田特産の下田なす。小ぶりでかわいらしく、あっさりした味が私は好きで、毎年夏に買っています。お漬物はもちろんのこと、薄味で煮て冷やして食べるのもいいですね。

それから、日野町特産の日野菜かぶ。これは、近年スーパーで生鮮品が出回っているのを知っていましたが、調理法が分からなくて敬遠していました。でも、昨年初めて買ってみました。桜漬けは難しそうなので、とりあえず塩漬けのお漬物にしたところ、とてもおいしくできました。日野菜漬けは一年中売られていますが、日野菜の旬は11月頃とのこと。私が作った塩漬けがおいしかったのは、料理の腕ではなく、旬の最もおいしい時期だったからだと思います。この冬は、調理法を調べて、いろいろな料理にチャレンジしようと思っています。

最後に、静かなブームの万木かぶについて。高島市安曇川町万木（ゆるぎ）で作られている赤かぶで、漬物が有名ですが、私は普通のカブと同じような使い方をします。白かぶに比べて少し渋みのあるところが好きです。また、みぞれ煮にすると、とてもきれいなうす紅色になります。湖西地域では12月頃に平和堂でも売っているのですが、皆さんのお住いの地域ではどうでしょうか。

その地域に古くから伝わり、地元の限られた地域で消費されてきた野菜が、伝統野菜なのでしょう。けれども今は、京野菜のようにブランド品として売り出し、地域振興の目玉にしようとするものもあります。おいしいものを食べたいという欲求が“食の多様化”を進めているのも確かですし、いつの世もそうやって新しいものを取り入れてきたのだと思います。

ところで、「近江の食」調査（2019年度）のレポーター便りは、いつ出るのでしょうか？博物館雑誌の「びわはく」で、ごく短いまとめ（見開き2ページ）を見ました。そこには、「日頃から近江の食に親しんでいるのは、滋賀県で生まれ、育った方が多い傾向が認められました。」と書いてありました。そうかもしれませんが私は、滋賀県出身でない人でも、食に興味がある人は滋賀の食をどんどん取り入れて、親しんでいるのではないのでしょうか。「びわはく」では詳しい内容が載せられなかったのだと思いますが、レポーター便りではデータを示して、この部分についての説明を詳しくお願いします。



アキアカネ（柵島提供）

赤トンボ調査をしました

FRS 柵島昭紘

10月11日（水）と18日（水）と2回、秋の赤トンボ調査をしました。場所は
大津市伊香立南庄町です。この場所は今年で8年目の調査になります。ただし、今年
はフィールドレポーター主催の調査は開催できませんでしたので、1人で調査をし
ました。

秋晴れの穏やかな日の11日と1週間後の18日の
2日間、調査方法は例年通りに、13時頃を中心に1
時間の調査をしました。トンボは、田んぼやため池の
周りに設置されている柵に止まっている姿が多く見ら
れました。



柵に止まるアキアカネ（柵島提供）

記録カードの結果は10月11日がアキアカネ117
頭、ナツアカネ26頭、ノシメトンボ28頭、マイコ
アカネ1頭、コノシメトンボ1頭で、合計で173頭
でした。10月18日がアキアカネ20頭、ナツアカネ0頭、ノシメトンボ10頭で、
合計で30頭でした。1週間間に大きく数が減りました。

今年度の実績データは10月11日（水）の結果を採用することにします。

1. アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボの各頭数とその比率

アキアカネ117頭、ナツアカネ26頭、ノシメトンボ28頭でこれらの総数は
171頭でした。その比率は図1です。

2. アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボのオスメスの比率

アキアカネはメスの方が多い結果でした（図2）。

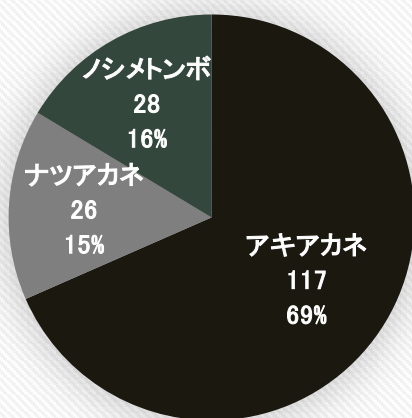


図1 赤トンボ3種の割合

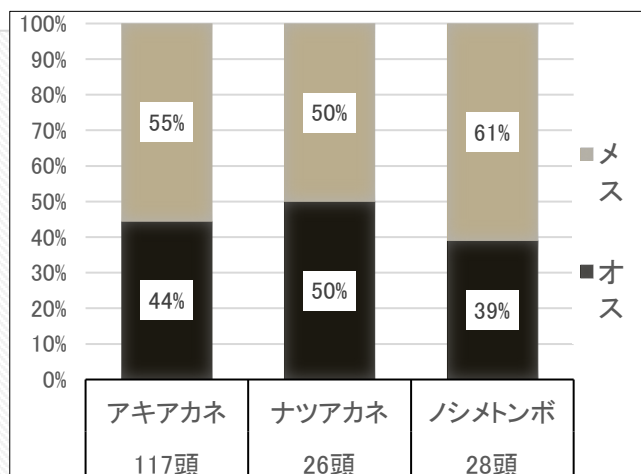
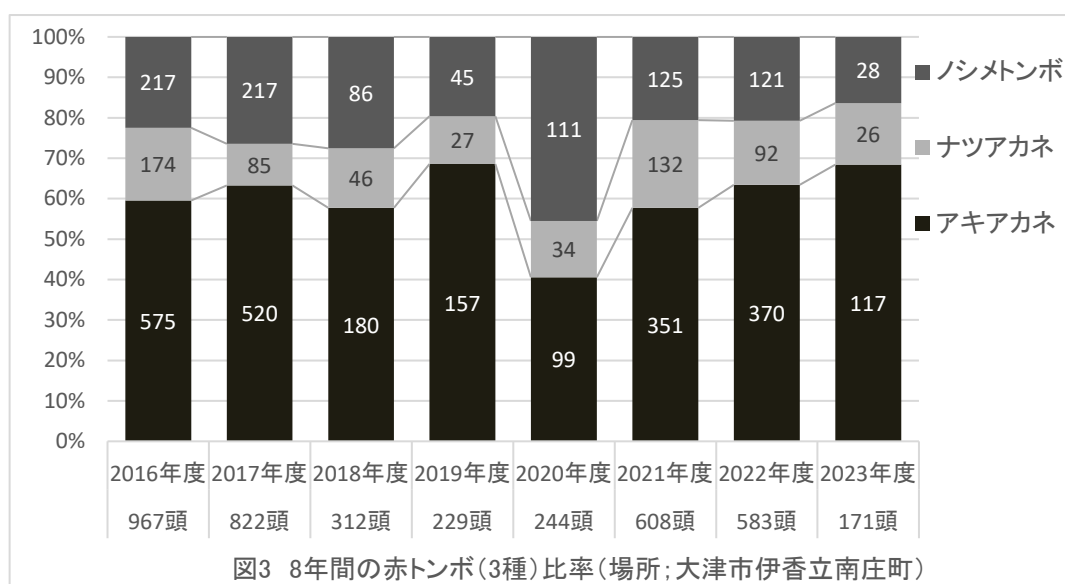


図2 3種のトンボのオスとメス比率

3. 8年間調査した、アキアカネ、ナツアカネ、ノシメトンボの比率の推移

結果は図 3 です。アキアカネは 60%前後で推移しています。



以上

お知らせ！

- 2023 年度第 2 回調査は「近江のナレズシ県民大調査」です。調査票が届きましたら、友人やご家族で楽しみながら記入して、返信封筒で返送お願いします。
- フィールドレポータースタッフに参加しませんか。
“我と思わん方” “チョットやってみようかな”、どなたも歓迎です。

活動報告・予定

2023 年度（4～10月）の活動報告

| 月 | 日 | 場所 | 参加者 | 主な議題・活動 |
|----|--------|--------|-----|--|
| 4月 | 8日(土) | 交流室 | 5名 | 定例会；①2023 年度第 1 回調査（スクミリンゴガイとタニシ類）の案内状、調査票発送 ②第 1 回交流会の内容検討 |
| | 22日(土) | 交流室 | 5名 | 定例会：①FR 便り 55 号（ヒガンバナ）原稿検討 ②第 1 回交流会の検討 |
| 5月 | 13日(土) | 交流室 | 5名 | 定例会；第 1 回交流会の内容、分担協議 |
| | 20日(土) | 生活実験工房 | 20名 | 第 1 回交流会 |
| 6月 | 3日(土) | 交流室 | 5名 | 定例会①FR 便り 55 号（ヒガンバナ）発送 |
| 7月 | 1日(土) | 交流室 | 5名 | 定例会①FR 便り 56 号（ヌートリア）検討 |
| 8月 | 5日(土) | 交流室 | 5名 | 定例会①FR 便り 56 号 検討 |
| 9月 | 2日(土) | 交流室 | 5名 | 定例会①FR 便り 56 号 発送 |

| | | | | |
|-----|--------|-----|----|------------------------------------|
| | 16日(土) | 交流室 | 6名 | 定例会①びわ博フェス参加決定、内容検討 |
| 10月 | 7日(土) | 交流室 | 5名 | 定例会①2023年度第2回調査(ナレズシ)内容検討②びわ博フェス準備 |
| | 21日(土) | 交流室 | 5名 | 定例会①2023年度第2回調査②びわ博フェス準備 |

2023年度 2023年11月～2024年3月の活動

| 日 時 | | 内 容 | 場 所 |
|-----|---------------------------|--------|---------|
| 11月 | 4日(土) 13:30～16:30 | 定例会 | 交流室 |
| | 11日(土) 13:00～16:30 | 定例会 | 交流室 |
| | 18日(土)、19日(日) 10:00～16:30 | びわ博フェス | 交流室、実験室 |
| 12月 | 2日(土) 13:30～16:30 | 定例会 | 交流室 |
| | 16日(土) 13:30～16:30 | 定例会 | 交流室 |
| 1月 | 6日(土) 13:30～16:30 | 定例会 | 交流室 |
| | 20日(土) 13:30～16:30 | 定例会 | 交流室 |
| 2月 | 3日(土) 13:30～16:30 | 定例会 | 交流室 |
| | 17日(土) 13:30～16:30 | 定例会 | 交流室 |
| 3月 | 2(土) 13:30～16:30 | 定例会 | 交流室 |
| | 16日(土) 13:30～16:30 | 定例会 | 交流室 |

定例会は原則として、第1、第3土曜日の13:30～16:30に琵琶湖博物館の交流室で行なっています。どなたでも参加できますので、どうぞお気軽にお越しください。見学も大歓迎です。なお、予定が変更になる場合があります。詳細は、琵琶湖博物館フィールドレポーター係 (Email: freporter@biwahaku.jp) までお問い合わせください。

編集後記

今年度も半年経過しました、掲示板は今年度第1号です。もう少し発行できるように皆さんの投稿が増えることを期待しています。投稿は調査票の送付封筒に入れていただいても良いですし、メール (Email: freporter@biwahaku.jp) でも良いです。気軽に投稿をお願いします。(担当 椛島昭紘)



滋賀県立
琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091
TEL: 077-568-4811 FAX: 077-568-4850
E-mail: freporter@biwahaku.jp